

男女共同参画シリーズ その3

子供の成長とともに

My growth is with my son

1 はじめに

子供を授かり育てていく。独身時代には考えられなかった家族という単位での生活。新しいことの連続で、楽しいことばかりでなく辛いこともあるけれど、一瞬一瞬がかけがえのない子供との、家族との大切な時間。その時間を通し、自分も第二の成長期を迎えている。

子育てをしている現在、私の状態はこのように表現される。

今回、子育てを通して私が感じていることを、これから子育てをする男性の方々へご紹介させていただければ幸いである。

2 技術士としての仕事

現在、私は斜面安定工事や地盤改良工事を得意とする建設会社に勤め、広島支店の技術部次長として施工現場における地質的トラブルの対応などを行っている。

現場から相談があった時、まずは全体像と現状を把握するため、工事に関する設計図、特に平面図と地質情報の記入された断面図、造る構造物の詳細図及び特記仕様書を確認する。これにより、工事目的と構造物の仕様、そして設計コンセプトを確認する。次に、地質調査報告書にて現場の地質情報の詳細を把握する。そのうえで現場の状況をよく観察することで、発生している地質的トラブルの原因を求め、解決方法を検討することができる。

地質的なトラブルは、地質構造が設計時の想定と異なっているために発生することがほとんどである。工事に携わる人の多くは工学の知識は豊富だが、地質学には疎いことが少なくない。そのため、説明には専門的な地質用語は使わず、地下の見えない地質構造をイメージしやすくするために3Dモデルを作るなどの工夫し、私の考えがしっ

かり伝えられるように努めている。

相手のことを知り、それに合わせて説明する方法を工夫する、ということ常を心掛けて仕事している。

3 子育て体験の紹介

現在、私は関東の自宅に妻と小学2年生の息子を残し、広島で単身赴任生活をしている。月に1回程度は我が家に帰宅し、家族と一緒に週末を過ごす生活をしている。最近は、IT技術の発展により、離れた場所でもコミュニケーションが取りやすくなった。帰宅しない週末は家族とスカイプをし、顔を見ながらの雑談を楽しんでいる。



写真1 スカイプでのコミュニケーション

私は田舎育ちであるため、子供にも外で自然に触れる遊びや体験をして欲しいと思っている。そのため帰宅時には、例えば春にはフキノトウやつくしを採りに行ったり、夏には川や沼で魚を取ったりというように、季節に応じた自然に触れる遊びをしている。

子供と一緒にいるこの時間を通して、父親ならではの躰をしたり、自然界の不思議を説明したりと、とても良い時間を過ごせていると思っている。

子供の好奇心は旺盛である。新しいことに会おうと、「なに？ なぜ？」と疑問を私にぶつけてくる。私は子供に説明する時、難しい言葉を使わず、抽象的な表現にならないように気を付けてい

る。また、例えや応用の話もすることで、より理解が深まるように思っている。実は、この説明の仕方が、仕事でも大いに役立っていると感じる。

一点、単身赴任をしている私にとって、子育てに関して残念に思っていることがある。それは、父親として子供をタイムリーに叱ることができない、ということである。何かあったその時にこそ叱る必要があり、後から話題をぶり返して叱ってもあまり意味がない。またスカイプや電話で叱っても、その効果は大きいものではない。タイムリーに、しっかりと子供の目を見て叱ることが必要と思う。褒める時も同じである。今後、この打開策を考えなければ、と思っている。



写真2 子供とジャガイモ掘り

4 これから子育てをする男性へ

子育ては、人生に一度しかないかけがえのない貴重な時間だと思う。子供との時間、母親となった妻との時間、家族としての時間、一瞬一瞬を大切にしていだければと思う。

子育てをする中でよく遭遇する事象について、少しアドバイスさせていただければと思う。躰のための、子供を「怒る」と「叱る」という行為の区別についてである。

「怒る」というのは、子供を注意する時に、親の気持ちに「怒り」が生まれている状態である。親自身の思い通りにならなかったことに対して苛立ち、それを子供に向けることである。興奮しているため、子供にどう伝わるのか、伝わっているのかまで頭が回らず注意している状態となってい

ると思う。

一方、「叱る」は、子供のしたことが良くないことであり、それを是正するために注意することである。そのため、親には「怒り」の感情はないはずである。むしろ心配など、子供のことを思う感情が主体となっていると思う。そのため、冷静に考え、子供にどう伝えれば良いか、しっかりと伝わっているかを考えながら注意することができると思う。

皆さんも、「そんなこと分かってるさ！でも、区別が難しいんだよね」と思われるかもしれない。そう思われているのであれば結構である。あとは少しずつ区別できるように自分も成長していけば良いと思う。私もまだまだ未熟であり、日々精進しているところである。

同じことが社会人としての人間関係においてもいえる。会社の部下への接し方、取引先との接し方など、自分本位か相手本位か、少し冷静に考えて行動すると、より良いコミュニケーションが取れるようになると思う。

5 おわりに

育児を通し、自分も第二の成長期を迎えていると思う。“育児”は“育自”とよくいうが、まさにその通りである。子供に教えられること、気づかされることがたくさんある。それらが社会人としての自分の成長にもつながっているのである。

男女共同参画推進委員会より

単身赴任中にお子さんとの時間を意識的に作り、大切に過ごしている田中様。社内の若手の皆様も、田中様をイクメンのモデルとして、ご自身のキャリアの参考にされることでしょう。

田中 尚 (たなか ひさし)

技術士（応用理学／総合技術監理部門）

日特建設（株）

広島支店 技術部

e-mail : hisashi.tanaka@nittoc.co.jp

